

3 2019年度 活動状況

※定款第4条該当項

※	演奏会名	演奏回数	入場者数	備考	
第一項第一、二 号	定期演奏会	21回	35,458人	【会員数】 Aシリーズ 1,141人 東京文化会館7回 Bシリーズ 1,375人 サントリーホール7回 Cシリーズ 960人 東京芸術劇場7回	
	プロムナードコンサート	4回	6,778人	【会員数】 1,063人 サントリーホール 4回	
	特別演奏会	7回	12,213人	<都響スペシャル> サントリーホール 2回 <第九> 東京芸術劇場、サントリーホール、東京文化会館 各1回 <その他> 八王子シリーズ 1回 フェスティバルホール（大阪） 1回	
	小計	32回	54,449人		
	共催・ 提携公 演	TOKYO MET SaLaD MUSIC FESTIVAL [サラダ音楽祭]	5回	8,745人	共催：東京都、東京芸術劇場、豊島区
		都響×アブリコ	1回	1,256人	共催：公益財団法人大田区文化振興協会
		都響・調布シリーズ	1回	1,196人	提携：公益財団法人調布市文化・コミュニティ振興財団
		ボクとわたしとオーケストラ	2回	3,650人	共催：いわき市民コミュニティ放送 NPO法人いわきの子どもたちに音楽を届ける会 いわき芸術文化交流館アリオス
		小計	9回	14,847人	
	依頼公演	27回	35,235人	地方公共団体、文化振興団体等	
第一項第二 号	音楽鑑賞教室	51回	46,465人	主催：各区市教育委員会等 都内20区市	
	マエストロ・ビジット	1回	44人		
	音楽アーティスト交流教室	(126回)	—	会場：台東区立及び豊島区立小学校 下記 注1 参照	
第一項第二、三 号	小規模演奏会	94回	19,304人		
	公開ゲネプロ	5回	732人		
	放 送 ・ 録 音	CD、DVD用録音等	5回 〔7回〕	—	〔 〕内は同時録音
		CD、DVD制作	0回 〔4回〕	—	〔 〕内は同時録音、過年度録音等
		放送用録音、放送	2回 〔15回〕	—	〔 〕内は同時録音
小計	7回 〔26回〕	—	下記 注2 参照		
合計		226回	171,076人		

注1 音楽アーティスト交流教室は、台東区立及び豊島区立の小学校を都響OB楽員等が訪問するクリニック事業であり、〔 〕内はクリニックの回数で、外書きである。

注2 放送・録音の〔 〕内は自主公演等の同時録音あるいは過年度録音等であり、外書きである。

<参考>公益財団法人東京都交響楽団定款

第4条 この法人は、前条の目的を達成するために次の事業を行う。

- 一 公開演奏
- 二 青少年のための演奏事業
- 三 その他の音楽芸術普及事業
- 四 その他前条の目的を達成するために必要な事業

2 前項の事業を推進するために行う音楽演奏事業及びその他の付帯事業

3 第1項及び第2項の事業は東京都において行うものとする。

1 事業の概要

音楽監督の大野和士、首席客演指揮者のアラン・ギルバート、終身名誉指揮者の小泉和裕、桂冠指揮者のエリアフ・インバルによる指揮者体制のもと、引き続き充実した企画内容の演奏会を開催した。また、国内外から客演指揮者・ソリストを迎えて高い芸術性を追求し、東京 2020 大会の気運醸成に向けて多彩な演奏活動を展開した。

楽団が主催する自主公演としては、楽団の芸術活動の中軸をなす定期演奏会はソワレ公演の A シリーズ（東京文化会館）・B シリーズ（サントリーホール）、マチネ公演の C シリーズ（東京芸術劇場）の計 21 回を実施した（各シリーズ 7 回実施）。また、親しみやすいプログラムを中心として幅広い層に親しまれているプロムナードコンサートを 4 回、そのほか、特別演奏会として毎年恒例の「第九」公演や大阪公演などを 7 回実施し、合計 32 回、約 5.4 万人を動員した。定期演奏会では、都響が高い評価を積み重ねてきたマーラー、ブルックナー、ショスタコーヴィチなどの作品のほか、新作の日本初演など幅広い時代や国・地域の音楽作品をバランスよく取り上げ、演奏内容の一層の充実とレパートリーの拡大を目指し、演奏水準の向上に努めた。また、定期演奏会では幅広い層の聴衆の興味関心を喚起することをねらいとして、国交・外交樹立や歴代の音楽監督の生誕・没後の周年記念にちなんだプログラムとし、プロムナードコンサートでは「五大陸音楽めぐり」と題して各回にテーマを持たせた企画とするなど、初心者から本格的なクラシックファンまで親しみやすい演奏活動を展開した。

共催・提携公演は、東京都とともに「TOKYO MET SaLaD MUSIC FESTIVAL [サラダ音楽祭]」を前年より拡大し、オーケストラ公演として 5 回開催したほか、公益財団法人大田区文化振興協会との共催による「都響×アプリコ」公演や、公益財団法人調布市文化・コミュニティ振興財団との提携による「都響・調布シリーズ」公演、2011 年度より実施している被災地支援「ボクとわたしとオーケストラ」公演（いわき市）を 2 回開催、合計 9 公演を実施した。

地方公共団体や文化振興団体などからの依頼公演は、東京・春・音楽祭やドラゴンクエスト公演、プレミアムコンサート、オペラ公演など合計 27 回を実施した。

青少年を対象とした音楽活動としては、音楽鑑賞教室を都内 20 区市で 51 回、音楽監督大野和士によるマエストロ・ビジットを 1 回実施し、オーケストラ鑑賞の機会や演奏家とのふれあいを通じて、約 4.7 万人の子供たちに音楽の持つ魅力を伝えた。

小規模演奏会は、都内の病院や福祉施設を中心に、JR 上野駅構内や東京都議会、多摩地域や島しょ地域、東北の被災地での演奏を継続的に実施したほか、「サラダ音楽祭」でのミニコンサートなど合計 94 回実施した。

さらに、テレビ放送やラジオ放送、映画「ドラゴンクエスト ユア・ストーリー」音楽の録音など、多岐にわたる活動を繰り広げた。

なお、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、2020 年 2 月下旬以降は一部を除き演奏活動を中止した。中止公演は計 28 回（自主公演 4 回、共催・提携公演 1 回、依頼公演 4 回、小規模演奏会 19 回）。演奏会の開催中止を続けざるを得ない状況の中、自宅等で長い時間を過ごしているお子さんや家族の皆様、都響ファンへ向けて都響スペシャル「春休みの贈り物」としてインターネット配信を行った。

2 事業の内容

2019年度の演奏活動は、定期演奏会を中心に年間226回にわたる演奏会を実施した。

I 公開演奏（定款第4条第1項第1、2号）

(1) 自主公演

ア 定期演奏会（21回）

当団の芸術活動の中軸をなす定期演奏会は、1965年の楽団創立以来、創造性に満ちた幅広い内容の企画による演奏会開催を目標とし、日本の音楽創造活動の牽引力となるべく、高い水準の先駆的な活動を継続している。

Aシリーズを文化会館で7回、Bシリーズをサントリーホールで7回、Cシリーズを東京芸術劇場で7回（うち2回は平日昼開催）、合計21回開催した。なお、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、第897回～第899回は開催を中止した（計3回）。

音楽監督5シーズン目となる大野和士は、2019年に没後150年を迎えたベルリオーズの《幻想交響曲》を定期演奏会（第876回）と大阪特別公演で指揮。また、大野自身は2019年度シーズンのテーマに「作曲家による最晩年の作品」を掲げ、ラフマニノフの《交響的舞曲》（第877回）、ベルクの《ヴァイオリン協奏曲》、ブルックナーの《交響曲第9番》（第884回、第885回）と、いずれも作曲家の最晩年の傑作を中心にプログラムを展開した。また、第884回、第885回は、都響音楽監督・首席指揮者を務めた若杉弘の没後10周年に捧げるプログラムとして、第886回は故渡邊暁雄（音楽監督：1972～1978、名誉指揮者：1978～1990）の生誕100年と、渡邊の母の祖国であるフィンランドと日本の外交関係樹立100年を記念して、それぞれ象徴的なプログラムとなった。

首席客演指揮者アラン・ギルバートは、第882回、第883回でモーツァルトの《交響曲第38番「プラハ」》、ブルックナーの《交響曲第4番「ロマンティック」》といった人気作を指揮したほか、ハイドンの《交響曲第90番》とアデスの近作を採り上げた第892回、第893回では、古典と現代を組み合わせたプログラミングで多面的な音楽性を示した。また、マーラーの《交響曲第6番「悲劇的」》を指揮した第894回（都響スペシャルと同演目）では、中間楽章を「アンダンテ・モデラート」→「スケルツォ」の順とし、第4楽章では改訂時に削除された3度目のハンマーを演奏するという解釈で聴かせた。

終身名誉指揮者小泉和裕は、第881回ではこれまで継続的に取り上げてきたブラームスの交響曲から第2番を、第889回ではブルックナーの《交響曲第7番》を指揮した。大野和士、アラン・ギルバート、小泉和裕の指揮により、定期演奏会のなかでブルックナーの交響曲を集中的に採り上げたことも2019年度の話題となった（第882回～第885回、第889回）。

桂冠指揮者エリアフ・インバルは、これまで高い評価を重ねてきたショスタコーヴィチの交響曲から、第11番《1905年》（第890回）、第12番《1917年》（第891回）を続けて指揮し、好評を博した。

客演指揮者を迎えた各公演では、指揮者それぞれの音楽性を発揮するバラエティ豊かなプログラムを展開した。第 878 回ではアンドリュー・リットンが 4 年ぶりに登壇。第 880 回は、日本とポーランドの国交樹立 100 年を記念して現代ポーランドを代表する作曲家クシシュトフ・ペンデレツキを指揮に迎え、ヴァイオリニスト庄司紗矢香との共演とともに、ペンデレツキ自身の作品を採り上げたことで関心を集めた。(ペンデレツキ氏は 2020 年 3 月 29 日に 86 歳で逝去。) マルク・ミンコフスキの登壇した第 888 回は、シューマンの《交響曲第 4 番》を初稿版で演奏し、話題を呼んだ。初共演となったアルゼンチン出身のアレホ・ペレスは、ディアギレフとロシア・バレエ団へのオマージュとして、ストラヴィンスキーの《ペトルーシュカ》とファリャの《三角帽子》を指揮(第 879 回)。同じく初共演のフィリップ・フォン・シュタインネッカーは、スッペとオッフエンバックの生誕 200 年を記念し、聴きなじみのある序曲を集めたプログラムで小品の新たな魅力を伝えた(第 887 回)。これまでの共演で英国の作曲家の作品を継続的に採り上げてきたマーティン・ブラビンズの登壇した第 895 回では、英国の現代作曲家ジェイムズ・マクミランの《トロンボーン協奏曲》を、同作品の初演者であるロイヤル・コンサートヘボウ管弦楽団首席トロンボーン奏者ヨルゲン・ファン・ライエンを独奏に迎えて日本初演した。2016 年 4 月の初共演以来、再共演を望む声が多く寄せられていたフランソワ＝グザヴィエ・ロトが登壇した第 896 回(都響スペシャルと同演目)では、モダンオーケストラでは演奏機会が稀なラモールのオペラ＝バレ《優雅なインドの国々》からロト自身が編んだ組曲や、ラヴェルのバレエ音楽《ダフニスとクロエ》全曲を演奏し、絶賛を博した。

イ プロムナードコンサート(4 回)

プロムナードコンサートは、おなじみの名曲や親しみやすい作品を第一線で活躍する指揮者やソリストの演奏でお聴きいただく休日マチネコンサートとして開催しており、オーケストラ音楽の一層の浸透を図っている。本年度は「五大陸音楽めぐり」と題して各回にテーマを設定し、クラシック音楽入門者にも楽しめるポピュラーな名曲をプログラムとして、サントリーホールで計 4 回実施した。なお、新型コロナウイルス感染拡大防止のため、No. 386 は開催を中止した(計 1 回)。

シリーズ初回の No. 382「European Composer in America」では、アメリカゆかりの作品をアメリカ出身のアンドリュー・リットンが指揮。ヴァイオリニスト三浦文彰をソリストに迎えたことでも注目を集めた。川瀬賢太郎の指揮による No. 383「東からの風、南からの熱」では、異国情緒豊かな名曲選としながら、スカルゾープ作曲《オセアニアより》の日本初演や、ロドリーゴの《アランフェス協奏曲》のハープ版(独奏:吉野直子)を織り交ぜ、意欲的なプログラムを披露した。No. 384「ロシア・グレイテスト・ヒッツ」では、桂冠指揮者エリアフ・インバルがロシアの名曲を壮大に響かせた。No. 385「音楽の世界遺産ー不滅の名曲集」では、終身名誉指揮者小泉和裕の指揮で、珠玉の小品ばかりのプログラムをお届けした。

ウ 特別演奏会（7回）

① 都響スペシャル（2回）

特別演奏会ではシリーズ演奏会（定期演奏会、プロムナードコンサート）の枠にはまらない企画性に富んだプログラムを組むことにより、幅広い聴衆層の獲得を目指し、オーケストラ音楽の浸透を図っている。

12月は首席客演指揮者アラン・ギルバートの指揮で、第894回定期演奏会と連続して同プログラムの公演をサントリーホールで開催した。また、2020年2月はフランソワ＝グザヴィエ・ロトの指揮で、第896回定期演奏会と連続して同プログラムの公演をサントリーホールで開催した。

② 第九公演（3回）

年末恒例の「第九」公演は、レオシュ・スワロフスキーの指揮により、東京芸術劇場、サントリーホール、東京文化会館にて各1回実施した。

③ その他（2回）

多摩地域での演奏活動の活性化を意図した「都響・八王子シリーズ」では、小泉和裕の指揮で聴きごたえのある名曲プログラムをお届けした。

2013年より隔年で開催している「大阪特別公演」では、音楽監督大野和士が第876回定期演奏会と連続して同プログラムを指揮した。

（2）共催・提携公演（9回）

ア TOKYO MET SaLaD MUSIC FESTIVAL [サラダ音楽祭]（5回）

東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会の気運醸成を図るため、2020年に向けて芸術文化都市東京の魅力を伝える取組「Tokyo Tokyo FESTIVAL」の中核プログラムとして、東京都とともに、東京芸術劇場及び豊島区と連携し、「TOKYO MET SaLaD MUSIC FESTIVAL [サラダ音楽祭]」を実施。2年目となる2019年度は、2018年度より規模を拡大して開催した。

この「サラダ音楽祭」では、サラダ=SaLaDの由来である「Sing and Listen and Dance～歌う！聴く！踊る！」をコンセプトに、赤ちゃんから大人まで誰もが参加して一緒に楽しめるオーケストラコンサートやワークショップなど、様々なプログラムを実施した。

オーケストラコンサートとしては、0歳児から入場可能な「OK!オーケストラ」（2公演）、音楽祭のメインコンサート《ロメオとジュリエット》（1公演）、ドラクエ・シンフォニックコンサート in SaLaD（1公演）、SaLaDポップスコンサート in 野音（1公演）の合計5公演を行った。

オーケストラコンサート以外にも、「歌」や「ダンス」、「楽器体験」、「楽器作り」、「作曲」のワークショップや、ヤマハ株式会社のAI技術協力による体験型ワークショップ「バーチャルオーケストラを指揮しよう！」を開催したほか、街なかで気軽に音楽を楽しむことができる弦楽四重奏や声楽アンサンブル等の無料ミニコンサートなど、多彩なプログラムを展開した。

各プログラムは、東京芸術劇場や池袋周辺の公園及び商業施設のほか、多摩地域等で実施し、[サラダ音楽祭]の企画全体を通じて延べ36,000人を超える方々に音楽の楽しさを体感していただいた。

イ 都響×アプリコ（1回）

公益財団法人大田区文化振興協会との共催事業として、身近なホールでの演奏会開催を望む音楽ファンの期待に応えるべく、協会と連携を図りながら企画を進め、井上道義の指揮で11月に開催した。

ウ 都響・調布シリーズ（1回）

多摩地域での演奏活動の活性化を意図したシリーズで、ホールと連携を図り地域との繋がりを深めている。平成13年度から公益財団法人調布市文化・コミュニティ振興財団との提携により実施しており、本年度で21回を迎えた。大友直人の指揮で、11月に調布市グリーンホールにて開催した。

エ ボクとわたしとオーケストラ（2回）

2011年度より実施している被災地支援「ボクとわたしとオーケストラ」公演（いわき市）は、2016年度から、株式会社いわき市民コミュニティ放送（SEA WAVE FM いわき）、NPO法人いわきの子どもたちに音楽を届ける会、いわき芸術文化交流館アリオスとの共催として12月に実施（午前の部：小学生、午後の部：中学生の計2回）しており、これまでに招待できた児童・生徒数は延べ2万8千人を超えた。

オ ふれあいコンサート（中止）

障害を持つ方やそのご家族を対象とした演奏会を、東京都及び公益財団法人日本チャリティ協会と連携して実施しており、本年度は36回目の開催を2月に予定していたが、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため開催を中止した。

（3）依頼公演（27回）

ア 都内

Fate/Grand Order Orchestra performed by 東京都交響楽団（4月・5月）、東京・春・音楽祭（4月）、八王子「ドラゴンクエスト」公演、東京国際音楽コンクール＜指揮＞入賞デビューコンサート（5月）、〈コンポージアム2019〉フィリップ・マヌリの音楽（6月）、すぎやまこういち「ドラゴンクエスト」公演、サントリー・サマー・フェスティバル オペラ『リトゥン・オン・スキン』（8月）、作曲家の個展（サントリー芸術財団50周年記念）（11月）、日本赤十字社献血チャリティ・コンサート（1月）、東京二期会オペラ劇場「椿姫」（2月）といった、多彩な公演に出演した。

加えて、東京都と公益財団法人東京都歴史文化財団が主催する演奏会にも出演しており、夏休み子ども音楽会、響の森（全2回）、プレミアムコンサート（全6回）に出演した。

なお、10月に予定していたメトロポリス・クラシックスは台風19号の接近により開催中止、3月に予定していた新宿文化センター公演、都民芸術フェスティバル、荘村清志スペシャル・プロジェクト vol.4は、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため開催が中止となった。

イ 地方・近郊公演

軽井沢大賀ホール公演（4月）、フェスタサマーミュージア KAWASAKI（8月）、富士見市公演（3月）に出演し、都響をアピールするとともにオーケストラ音楽の一層の浸透と裾野の拡大に貢献した。

II 青少年のための演奏（定款第4条第1項第2号）

（1）音楽鑑賞教室（51回）

次代を担う子供たちに質の良い音楽を提供し、音楽・文化を愛する若者を育てていくことは、青少年育成に力を注ぐ都響の重要な使命の一つである。事前に教員や教育委員会などと打ち合わせを重ね、子供たちに親しみやすい曲から本格的なクラシック音楽まで、プログラム、企画、構成など工夫を凝らしており、子供たちのみならず関係者にも好評を得ている。本年度は都内20区市の小中学生を対象に、各地のホールにて51回実施した。

（2）マエストロ・ビジット（1回）

2004年度より引き続き実施しており、本年度は音楽監督の大野和士が葛飾区立金町中学校を訪問し、特別授業を行った。大野による指揮体験活動や、オーケストラ部の直接指導など、子供たちとの対話を通じて音楽を創り上げていく楽しさや興味を深める取り組みを行った。

（3）音楽アーティスト交流教室（126回）

都響楽員OB等が小学校を訪問し、楽器の演奏指導を行う事業である。2005年度から台東区内で実施しており、2010年度からは対象地域を豊島区にも拡大し、本年度は150回の演奏指導を予定していたが、一部の演奏指導については、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため開催を中止した。

III その他の事業（定款第4条第1項第2、3号及び第2項）

（1）小規模演奏会（94回）

顔の見えるオーケストラとしてより多くの方々へ音楽を届けることを目指し、2002年度から小規模アンサンブルを中心にデリバリー形式の演奏会を積極的に実施している。

主に病院や福祉施設にて演奏した「ふれあいミニコンサート」（共催：一般財団法人東京都弘済会）、「音楽の贈りものコンサート」（主催：公益財団法人メトロ文化財団）などのほか、東京都美術館・東京文化会館との連携による、東京都美術館の展覧会企画とコラボレーションした「ART meets MUSIC」（主催：東京都美術館（公益財団法人東京都歴史文化財団））や、JR駅構内エキュート上野で開催し

た「クリスマスステーションコンサート」（主催：JR 東日本リテールネット株式会社）、東京文化会館との共催事業「ティータイムコンサート」など、多くの方々に演奏を楽しんでいただいた。また、三宅村、利島村、大島町、御蔵島村、新島村、式根島村、小笠原村での島しょ公演をはじめ、多摩地域でも多くの公演を実施し活動の幅を広げた。また、[サラダ音楽祭] では、池袋エリアの公園や商業施設、多摩地域などで、街なかで気軽に楽しめるミニコンサートを積極的に実施した。東京都以外の地域へも積極的に出向いており、被災地支援として岩手県野田村、宮城県石巻市などでの演奏会を本年度も実施し好評を得た。さらに、東京 2020 年大会に向けて開催された NOC（国内オリンピック委員会）及び NPC（国内パラリンピック委員会）レセプションパーティで演奏を実施した。

なお、3 月に予定していた一部の小規模演奏会は、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため開催を中止した。

(2) 公開ゲネプロ（5 回）

TMSO サポーターを対象とした公開ゲネプロを、定期演奏会、都響スペシャルにて実施した。その他、依頼公演において 2 回の公開ゲネプロを行った。

(3) 放送・録音（7 回〔26 回〕（〔〕内は同時録音、過年度録音等）

映画「ドラゴンクエスト ユア・ストーリー」音楽の収録や、すぎやまこういち指揮「ドラゴンクエスト」公演のインターネット同時配信、「Fate/Grand Order Orchestra performed by 東京都交響楽団」公演の CD・Blu-ray 用収録などを実施した。

また、新型コロナウイルス感染症予防のために自宅等で長い時間を過ごしているお子さんや家族の皆様、都響ファンへ向けて、都響スペシャル「春休みの贈り物」としてインターネット配信を行うなど、多くの方に音楽を楽しんでいただく機会を提供した。